

事業報告書（概要版）

令和5年度

施設名	新潟市母子生活支援施設さつき荘	
管理者名	社会福祉法人新潟市社会福祉協議会 所在地 新潟市中央区八千代1丁目3番1号 代表者 会長 井浦 正弘	
基本方針	母子生活支援施設は、母と子の権利擁護の生活の拠点として、子どもを育み、子どもが育つことを保障し、安定した生活の営みを支えます。 そのために、母子生活支援施設は、母と子の主体性を尊重した自立への歩みを支えるとともに、常に職員の研鑽と資質向上に励み、公正で公平な施設運営を心がけ、母と子および地域社会から信頼される施設として支援を行うことをめざします。	
運営組織	職員の配置 ・施設長 1名 ・母子支援員 1名 ・少年指導員 2名 ・嘱託医 1名	
業務の実施状況	自立支援計画の策定	入所後概ね1か月時に初回の自立支援面談を実施しその後半年ごとに実施している。全職員による処遇検討会を経て、自立支援計画を策定、検討内容を記録。子どもの意向や関係機関の意見も盛り込んでいる。 就学児は年1回以上の面談を実施し、児童支援計画を作成。
	利用者の要望意見の吸い上げ	意見箱を設置し、利用者が無記名でも随時、意見を投函できる体制を整備している。「生活のしおり」にも記載し、周知している。 月1回の母親集会で、要望や意見交換がなされ、運営に反映させた。 以下のアンケートを実施し、入・退所者の意見を反映した。 ①施設の生活や職員対応について ②退所者支援として行っている寄贈品配布会でのアンケートをもとに、要望の多い夏祭りを企画・実施した。
	苦情・要望に対する対応	法人に第三者委員2名を配置 「生活のしおり」「こどものしおり」にも受付方法を記載・説明して、周知している。毎月の母親集会では意見交換の時間を設けており、その場で返答できないことは、次回の母親集会や掲示などで返答。。受付及び回答は速やかで誠実な対応を意識している。
	緊急時の対応	多様な緊急時に対応できるよう、危機管理マニュアルを整備し、職員に周知している。 不審者侵入時の訓練は、所轄の警察署署員3名の出席のもと年1回実施した。 ヒヤリ・ハット事例の有無について毎朝情報共有し、施設日誌に記載。職員間で検討、分析を経て対策を講じた。
	管理運営経費の縮減	工事や備品購入は、2社以上の見積もり合わせや価格調査を行ない、適正でより安価な業者を利用した。なお、軽微な修理・修繕は職員が協力して行った。 寄贈品などを活用し、サービスを向上させた。 紙類使用量の減量化や不要用紙の裏面利用、封筒の再利用など、事務消耗品の節約に努めた。 昨年度同様、夜間の玄関や廊下・階段等の消灯を進めるため、利用者の理解と協力を得て、経費削減に取り組んだ。
	防災対策	各種災害を想定した避難訓練を月1回実施（火災・水害・地震想定）。職員不在時の消防組織・緊急連絡体制の整備、警備会社と消防署への通報装置を設置しているほか、職員不在時を想定した避難訓練も実施。また、施設が地域の防災組織に組み込まれ、有事の協力体制も強化している。
	個人情報保護	コンプライアンス及び個人情報保護について施設内研修を実施し、常に個人情報の保護に努めた。 入所時には、関係機関との連携、個人情報の取り扱いについて説明し、書面で同意書ももらっている。場面ごとに利用者の承認を得るよう努めている。 個人情報を含んだ書類のやり取りの際は、メールにパスワードをかけて保護を行った。
	配置人員	施設長 1名 母子支援員 1名 少年指導員 2名
	配置人員の資質向上	職員の業務内容と経験年数を考慮しながら、研修機会が偏らないよう配慮し、一人2回以上の研修に参加した。 職員自ら、専門性向上のため受講したい研修等を探し、積極的に参加するとともに、研修後に職員間で共有する時間を設けた。